

令和2(2020)年

5月1日

第228号 毎月発行

編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館

毎月第4月曜日は休館日です

西東京市

公民館だより

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、主催事業や施設利用などについて、今後中止・延期となる可能性があります。最新情報については、公民館にお問い合わせいただくか、市ホームページでご確認ください。

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

写真で知る西東京市のむかし

田無用水で雨乞い

旧田無の青梅街道周辺の地域は井戸を掘っても水が湧かないところで、宿場がつくられた後も、人々は朝夕、谷戸から飲み水を運んでいました。

1654年頃、江戸の水不足を解消するために多摩川の水を市中に送る玉川上水が開削されると、武蔵野台地の村々に水を運ぶいくつもの分水路がつくられました。田無用水もその一つで、1696年に現在の小平市小川町の喜平橋の付近から分水して水路がつくられました。これにより、田無宿場は、安定的に飲用水を確保できるようになりました。

田無では、雨が降らず日照りが続くと、雨乞いの祈りをしていました。昭和20年頃まで行われていたそうです。御嶽講の代表者が青梅の御嶽神社の奥にある七重の滝の水を孟宗竹ひと筋にもらってきて、橋場でその水を迎え、神官に祈禱してもらった後、田無用水の水をせき止めてもらってきた水用水に流しました。そして、水をかぶって体を清め、龍神様を呼ぶために、御嶽を担いで田無神社から谷戸まで練り歩いたそうです。水の井の頭の弁天様からもらったこともありました。



橋場は、田無用水が南北二つの水路に分かれるところで、青梅街道に橋がかげられたことが地名の由来といわれています。

橋場付近(田無町七丁目3番) 昭和15(1940)年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

西東京市に伝わるむかしばなし

耳をなす神さま 鐘塚の庚申さま 福泉寺 帝釈天庚申塔

福泉寺(下保谷三丁目)境内の小堂の中に帝釈天庚申が祀られています。大正6(1917)年に造立されましたが、前身は下保谷新田鐘塚上(現在の東町二丁目)の堂内に安置されていた。『鐘塚の庚申さま』と村人に親しまれ、庚申の日にはにぎやかなお祭りが催されるなど、信仰の多い石仏だったそうです。失火で焼失したため、信者によって造られた第二世が、福泉寺の帝釈天庚申です。昭和30(1955)年に福泉寺に遷座されました。

『鐘塚の庚申さま』には、次のような昔話が伝わっています。

朝早くから夜遅くまで畑で働く働き者のおばあさんがいました。おばあさんは耳がよく聞こえなくなっていました。そのため、いつも話すことがトンチンカンなことばかりだったので、『トンチンカンババー』と名がつけられていました。

ある夏の暑い日、おばあさんは、「暑いだろう、かわいそうに」と井戸から汲んできた冷たい水を柄杓で庚申さまの頭からかけてあげました。そして、小銭を置いて「耳を聞こえるようにしてほしい」とお参りしました。もう一度かけてあげようと、井戸に水を汲みに行き、柄杓に水を入れてみると、柄杓の底が抜けてしまいました。おばあさん



帝釈天庚申塔



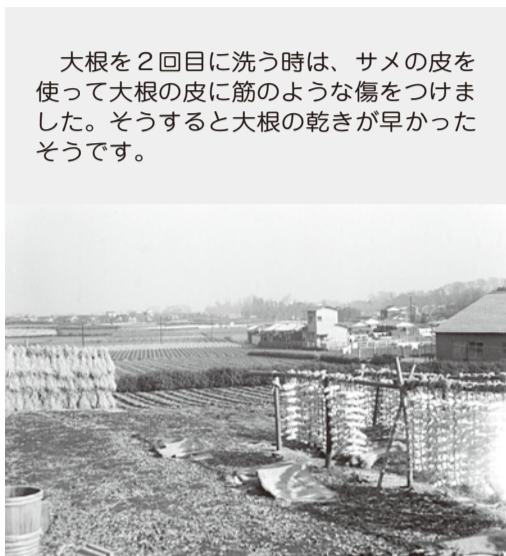
庚申堂

※参考資料
『合併記念誌1 西東京市むかしばなし』(西東京市中央図書館編集・発行、二〇〇三年)
『保谷の昔と村人たち』(片桐譲著、東京保谷ロータリークラブ発行、一九九九年)
『保谷市史別冊1 保谷の石仏と石塔』(保谷市史編さん委員会編集、保谷市役所発行、一九八四年)

大根を干す風景

昭和以降、旧田無でも旧保谷でも、農家はたくあん用の大根

を作付けするようになりました。大根の種類は、練馬大根や秋早生、リンウダイコンなどでした。旧田無では、大根を「干し大根」にして漬物屋等に出荷する農家が大半で、漬物に出す家はそれほどなかったそうです。



田無 昭和35(1960)年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

収穫した大根は、まず楕円形の大おけで2回洗い、3回目はすすぎ洗いをしました。洗った大根は、7〜8本くらいを縄で連ねて干しました。これを一連といいましたが、100連つくる農家はめずらしくなく、大根700〜800本が農家の庭一面につるされたそうです。多い家では、一冬3000本も干したそうです。朝早く棹にくくりつけて干し、夜は納屋に取り込みました。旧保谷では昭和初期から終戦までたくあん漬けが盛況で、一時、30軒以上のたくあん屋があったそうです。

※参考資料
『田無市史 第3巻 通史編』
『田無市史 第4巻 民俗編』
『保谷市史 通史編 4 民俗』

おたのしみ川柳

今月のお題「結」

- ・知恵絞り出した結論不採用 上田 政和
- ・結納金カード払いの味気なさ ひばり
- ・世界中マスクと結び防止策 太田 照子
- ・古稀過ぎてなほも妻への結び文 岡宮 直利

編集室では、みなさまの投稿をお待ちしています。氏名・住所・電話番号を記入の上、お近くの公民館に郵送、メール、持参でお寄せください。

7月号のお題 「家」です

締切 5月22日(金)